



安川電機 (6506)

2012年度4-12月期業績概要

2012年3月21日～2012年12月20日

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

1. 2012年度4-12月期決算について

- 2012年度4-12月期連結決算のポイント
- 2012年度4-12月期連結セグメント別業績
- 営業利益増減要因分析(11/4-12月期 ⇒ 12/4-12月期)
- 事業セグメント別売上高構成比(11/4-12月期 ⇒ 12/4-12月期)
- 仕向先別売上高・売上高構成比(11/4-12月期 ⇒ 12/4-12月期)

2. 2012年度通期見通しについて

- 2012年度通期連結業績見通しのポイント
- 2012年度における取り組み
- 中国・アジア地域における取り組み強化

3. 参考資料

- 設備投資、研究開発費、為替状況
- 連結売上高・営業利益推移(2000年～2012年計画)
- B/S構造の推移(連結)
- 四半期連結売上高推移(セグメント別、仕向先別)
- 配当金の推移
- 主要生産拠点

セグメント別事業概要

モーションコントロール:(M)

【主要製品】

- ・ACサーボモータ、コントローラ
- ・リニアサーボ
- ・インバータ
- ・パワーコンディショナー
- ・EV用ドライブシステム など



ACサーボ



汎用インバータ



太陽光発電用
パワーコンディショナ



EV用モータドライブ
システム

ロボット:(R)

【主要製品】

- ・産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装ロボット
 - FPD搬送ロボット、新世代ロボット
- ・半導体製造装置用ロボット
 - 半導体製造装置用クリーン・真空ロボット など



レーザー切断・溶接対応
高精度軌跡ロボット



双腕ロボットによる
製品組立



パラレルリンクロボット

システムエンジニアリング:(S)

【主要製品】

- ・鉄鋼プラント用電機システム
- ・上下水道用電気計装システム
- ・大型風力発電用電機品 など



上下水道システム



連続鋳造設備



大形風力発電用
発電機とコンバータ

情報:(情報)

【主要製品】

- ・コンピュータ周辺機器
- ・レーザー応用システム
- ・ソフトウェアの開発、IT関連のサービス など



ハイパワーレーザー対応スキャナヘッド



NetSHAKER ProxyBox

1. 2012年度4-12月期決算について

2012年度4-12月期連結決算のポイント

- ・ 震災特需のあった前年同期比では、減収減益

	<u>12/4-12月期</u>	11/4-12月期	<u>前年同期比</u>	
売上高	<u>2,191億円</u>	2,262億円	<u>▲70億円</u>	<u>▲3.1%</u>
営業利益	<u>67億円</u>	112億円	<u>▲44億円</u>	<u>▲39.4%</u>
経常利益	<u>75億円</u>	114億円	<u>▲39億円</u>	<u>▲34.6%</u>
四半期純利益	<u>38億円</u>	69億円	<u>▲31億円</u>	<u>▲44.6%</u>

2012年度4-12月期決算連結セグメント別業績①

- ・太陽光パワコンが需要急増も、ACサーボは想定以上に苦戦
- ・(R)は堅調に推移

(単位:億円、%)

	2012/4-12月		2011/4-12月		前年同期比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	2,191	-	2,262	-	▲70	▲3.1%
(M) モーションコントロール	1,041	-	1,177	-	▲135	▲11.5%
(R) ロボット	774	-	722	-	+51	+7.2%
(S) システムエンジニアリング	243	-	206	-	+36	+17.6%
情報	87	-	89	-	▲1	▲2.0%
その他	44	-	65	-	▲21	▲32.2%
営業利益	67	3.1%	112	5.0%	▲44	▲39.4%
(M) モーションコントロール	19	1.9%	66	5.6%	▲46	▲69.8%
(R) ロボット	47	6.1%	49	6.8%	▲1	▲3.7%
(S) システムエンジニアリング	5	2.1%	▲1	▲0.6%	+6	-
情報	▲5	▲6.6%	▲3	▲3.7%	▲2	-
その他	2	5.6%	4		▲1	▲40.8%
消去または全社	▲1	-	▲3	-	+1	-
経常利益	75	3.4%	114	5.1%	▲39	▲34.6%
当期純利益	38	1.8%	69	3.1%	▲31	▲44.6%

2012年度4-12月期決算連結セグメント別業績②

(M)

- ・ ACサーボは、8月度以降、主力のエレキ関連市場及び中国市場が低迷
- ・ インバータは、米州のエネルギー関連が堅調。加えて、太陽光パワコンの需要が牽引

(R)

- ・ 国内外とも自動車を中心に一般産業が堅調
- ・ 一方、液晶、半導体向けは低水準

(S)

- ・ 水処理設備向けは減少。鉄鋼産業向けは端境期を脱し、前年同期比で増収増益

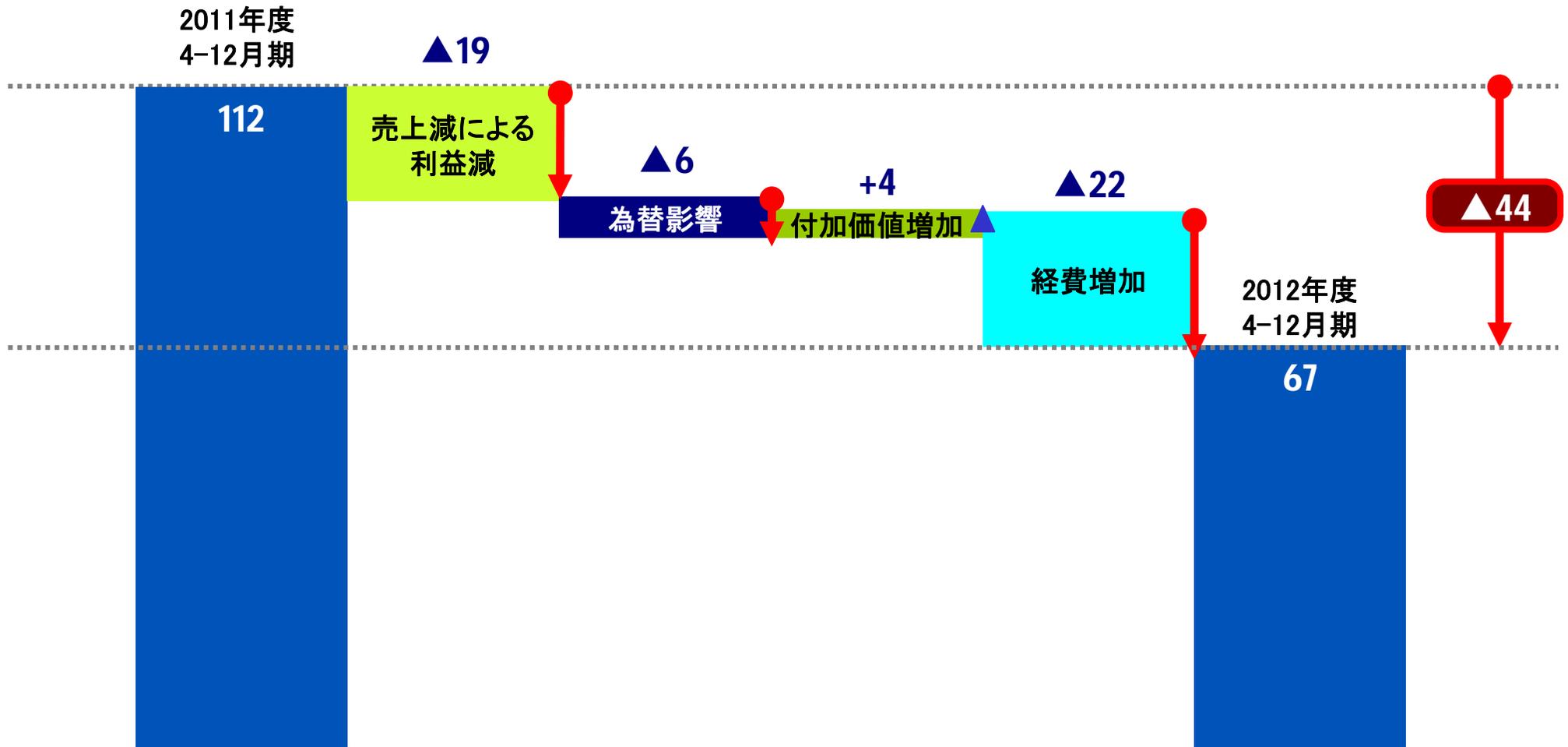
(情報)

- ・ 情報関連投資は低調。減収減益

(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

営業利益増減要因分析(11/4-12月期⇒12/4-12月期)

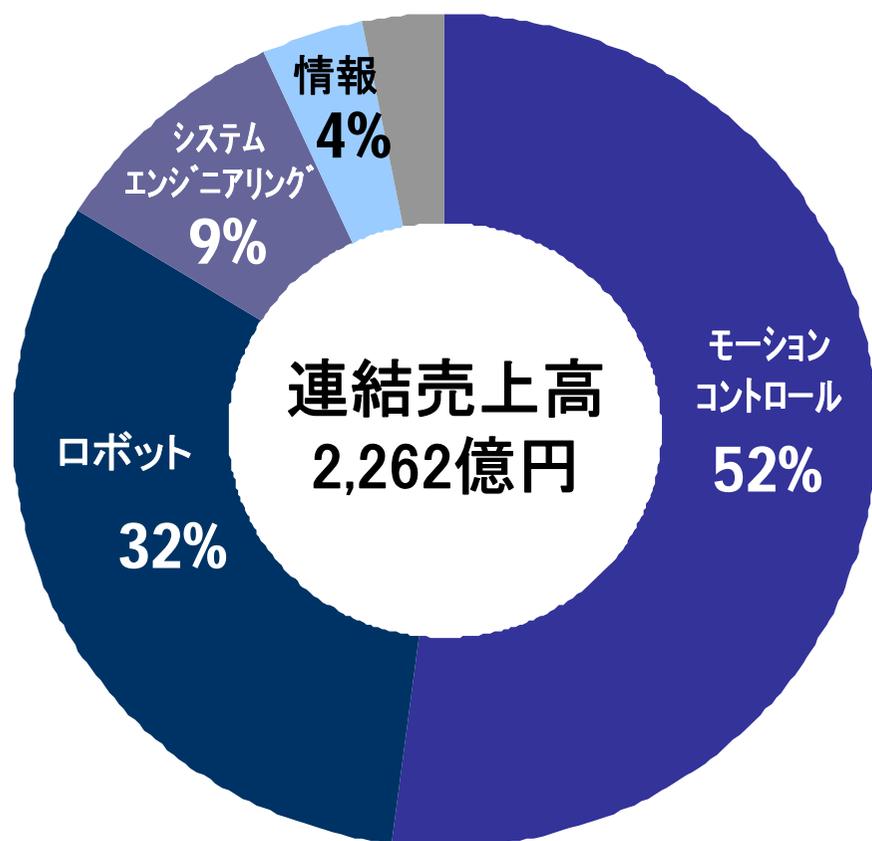
(単位:億円)



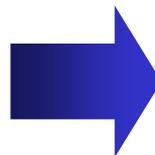
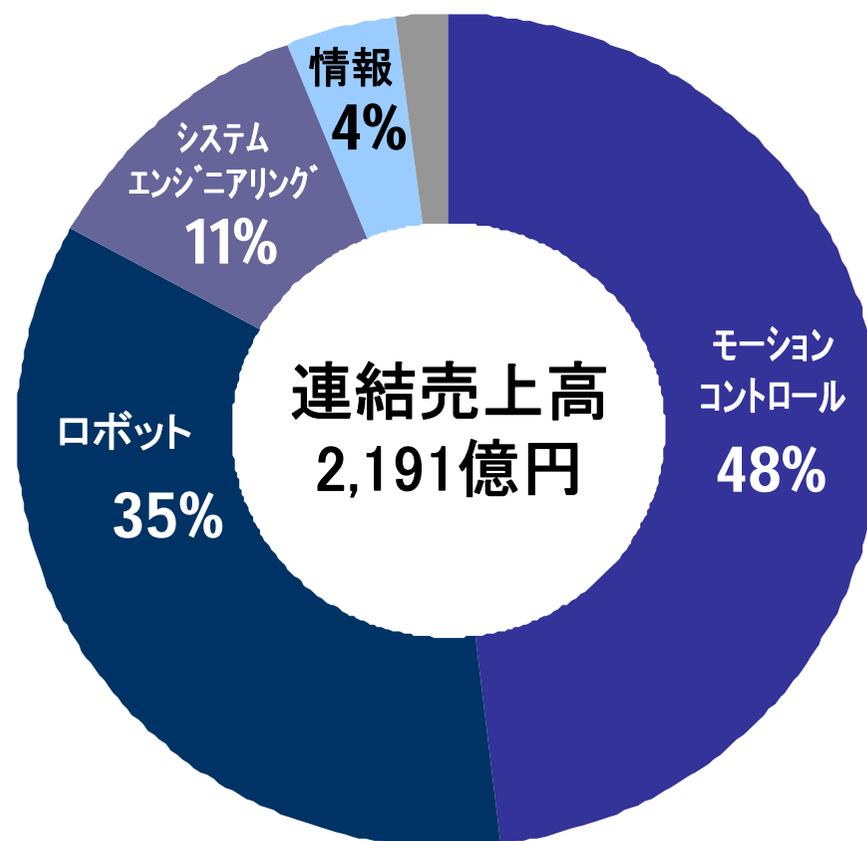
事業セグメント別売上高構成比

・(R)ロボットの構成比が大幅に拡大

11年度4-12月期



12年度4-12月期



仕向先別売上高(11/4-12月期⇒12/4-12月期)

- ・米州は順調に回復
- ・欧州は停滞し、中国の成長は鈍化

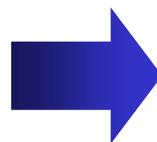
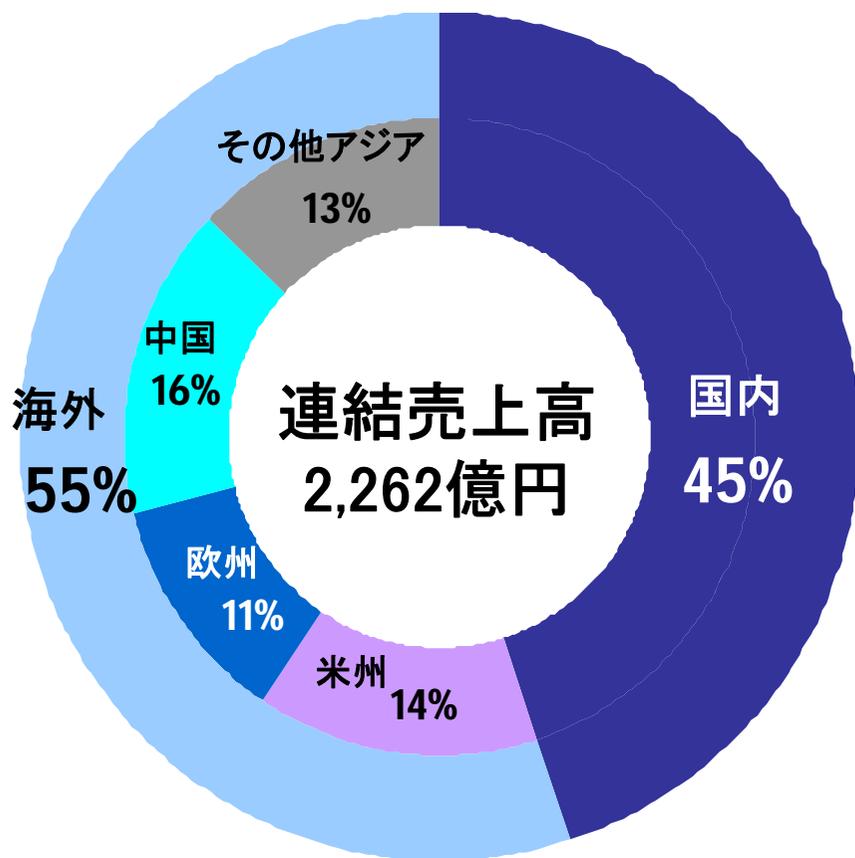
(単位:億円、%)

	2012年度 4-12月期	2011年度 4-12月期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	2,191	2,262	▲70	▲3.1%
国内	979	1,018	▲39	▲3.9%
海外	1,212	1,243	▲31	▲2.5%
米州	367	322	+44	+13.9%
欧州	219	254	▲34	▲13.7%
中国	376	361	+14	+4.0%
その他アジア	227	296	▲68	▲23.3%

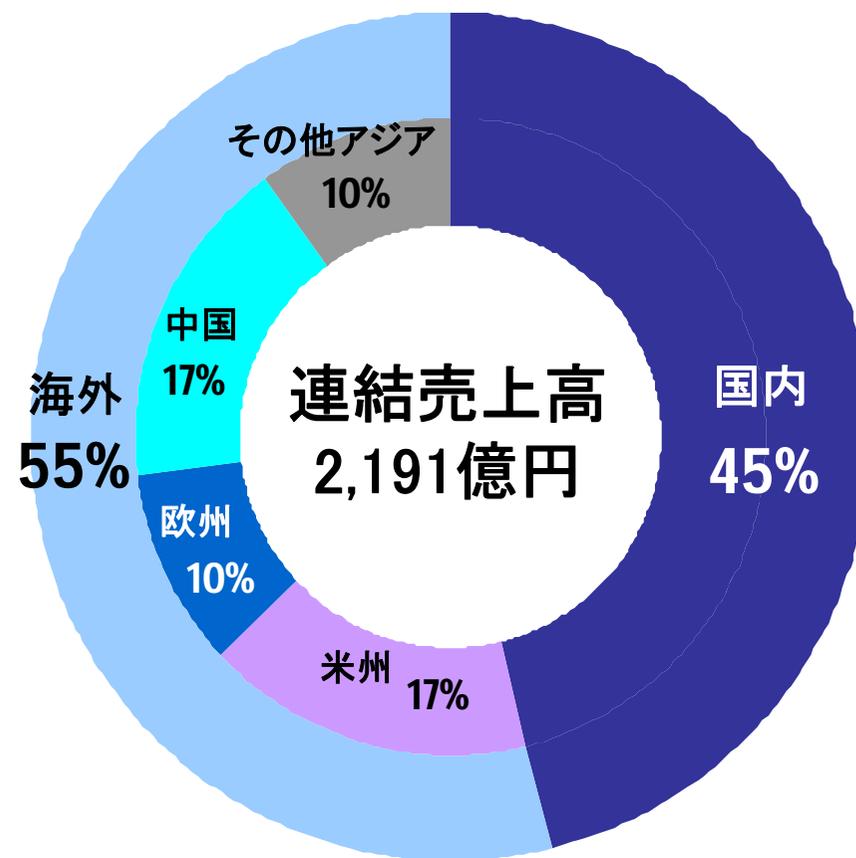
仕向先別売上高構成比

・米州の構成比が17%に拡大

11年度4-12月期



12年度4-12月期



2. 2012年度通期見通しについて

2012年度通期連結業績見通しのポイント

- ・ (M)の主力市場は回復基調、太陽光パワコンは高水準
- ・ (R)は半導体・液晶向けは低水準
- ・ 12年度通期の全社計画は据え置き

	12/上期 実績	12/3Q 実績	12/4Q 計画	12/下期 計画	12/通期 計画	11/通期 実績	前年度比	
							増減額	増減率
売上高	1,504億円	686億円	808億円	1,495億円	3,000億円	3,071億円	▲71億円	▲2.3%
営業利益	61億円	6億円	62億円	68億円	130億円	148億円	▲18億円	▲12.3%
経常利益	63億円	11億円	54億円	66億円	130億円	156億円	▲26億円	▲16.8%
当期純利益	34億円	3億円	31億円	35億円	70億円	84億円	▲14億円	▲17.0%

(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

2012年度における取り組み①: 量の確保

1) 成長・注力市場への重点投資

- ドイツにおける(M)のシェア拡大
⇒2012年12月: ドイツPLCメーカー (Vipa社)の取得
- 米州エネルギー産業への積極参入
⇒2012年9月: カナダシステムインテグレータ Wermac Electric社の取得
- 中国における現地対応力の強化
⇒瀋陽にサーボの中国開発センタを設置
- ロボットセンタの新設・強化
⇒欧州、ブラジルに開設 (日本、米州、中国は11年度に開設)
⇒東南アジアにおける更なる拠点強化

2) 主力製品・新製品による拡販

- 主力製品への切替がほぼ完了 (「 Σ -V」、「1000シリーズ」)
- 新製品投入及び拡販
 - ・2012年上期: 省レアアース製品の投入・拡販
 - ・2012年10月: 3次元形状計測ユニット「MotoEye-3D」の投入
 - ・2012年10月: 「 Σ -V-EXシリーズ」の販売
 - ・2013年1月: 6軸力センサユニット「MotoFit」の投入



MotoEye-3D



Σ -V-EXシリーズ

2012年度における取り組み②: コア事業の利益率向上

1) 海外生産・海外調達の推進

- ⇒ ACサーボ及びインバータの海外生産・調達の強化
- ⇒ 中国におけるロボット生産子会社の設立（2013年6月量産開始予定）

2) 生産体制のさらなる合理化

- ① 国内ロボット工場の再編（ロボット村構想）
 - ⇒ 半導体・液晶ロボット工場の集約によるオペレーションの合理化
 - ⇒ 自動化による生産効率の向上
- ② 環境エネルギー事業領域拡大に向けた産業用モータ事業の再編・強化
 - ⇒ 産業用モータ生産会社の集約（13年3月開始予定）

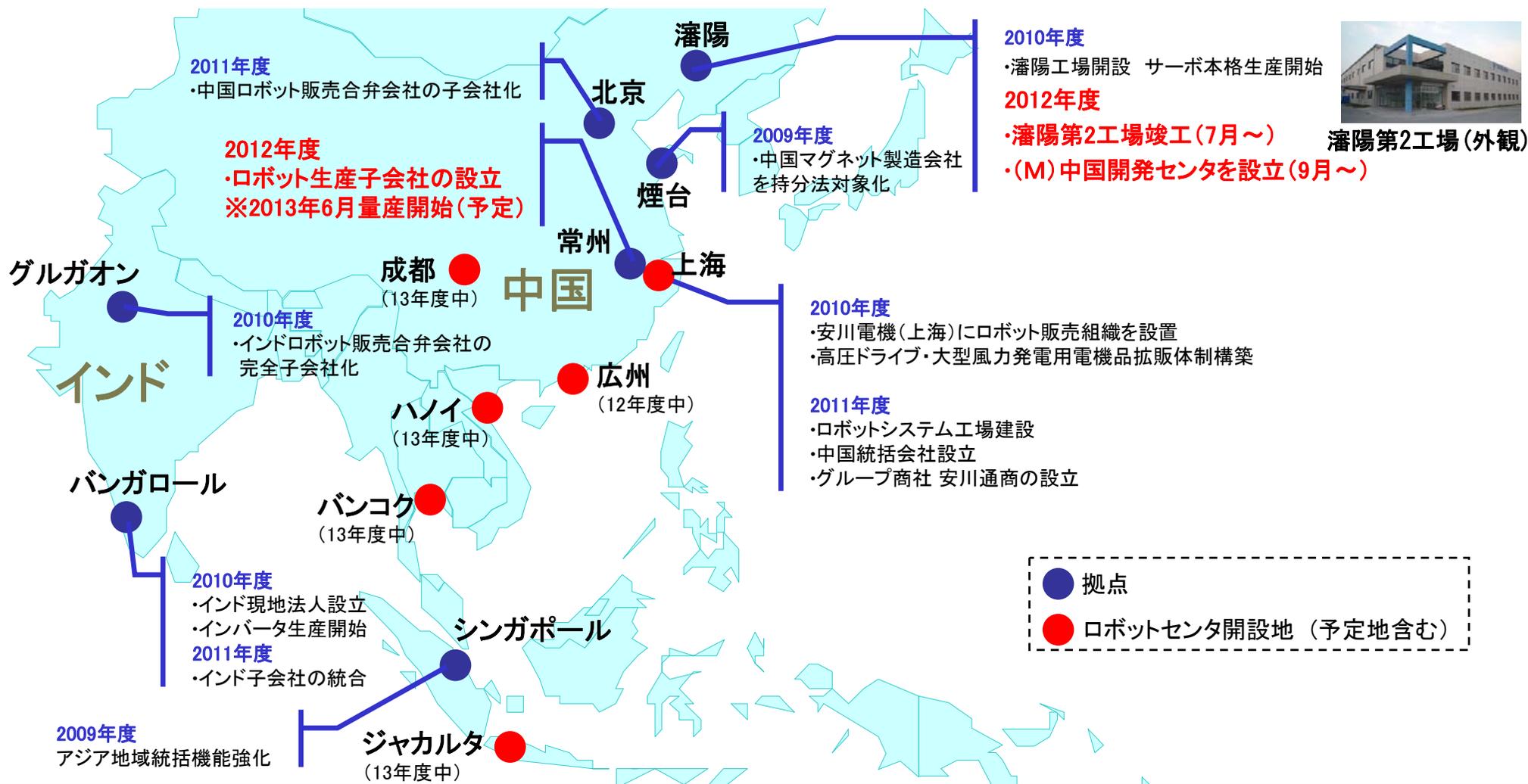
3) 業務のさらなる効率化

- ⇒ 業務効率化30%（K30プロジェクト）を全社横断的に推進

中国・アジア地域における取り組み強化

・中国を中心に需要地生産・調達の拡大

・成長著しい中国・アジアでのロボットセンタ新設強化により拡販を加速



参考資料

設備投資、研究開発費、為替状況

◆設備投資の状況（連結）

（単位：億円）

	2010年度	2011年度	2012年度計画
設備投資額	66.6	99.1	130.0
減価償却費	70.6	76.1	85.0

◆研究開発投資の状況（連結）

（単位：億円）

	2010年度	2011年度	2012年度計画
研究開発投資	97.2	103.9	110.0

◆為替状況（連結）

	2010年度		2011年度		2012年度	
	10/4-12	通期	11/4-12	通期	12/4-12	通期想定
対 米ドル	87.66円	86.52円	79.43円	79.02円	79.87円	81.51円
対 ユーロ	114.77円	113.90円	111.97円	109.49円	102.05円	105.29円

(注)期中平均レート

連結売上高・営業利益推移(2000年度～2012年度計画)



B/S構造の推移(連結)

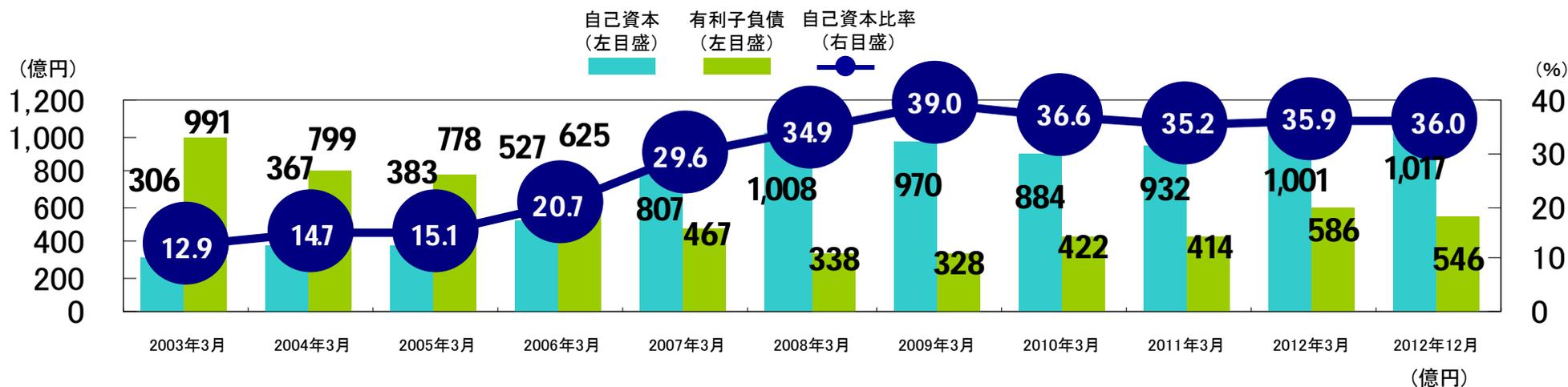
2012年3月期

- 自己資本比率 35.9%
- 自己資本 1,001億円
- 有利子負債 586億円
- D/Eレシオ 0.59
(ネットD/Eレシオ) 0.38
- 棚卸資産 638億円
(回転月数) (2.5ヵ月)

2012年12月期

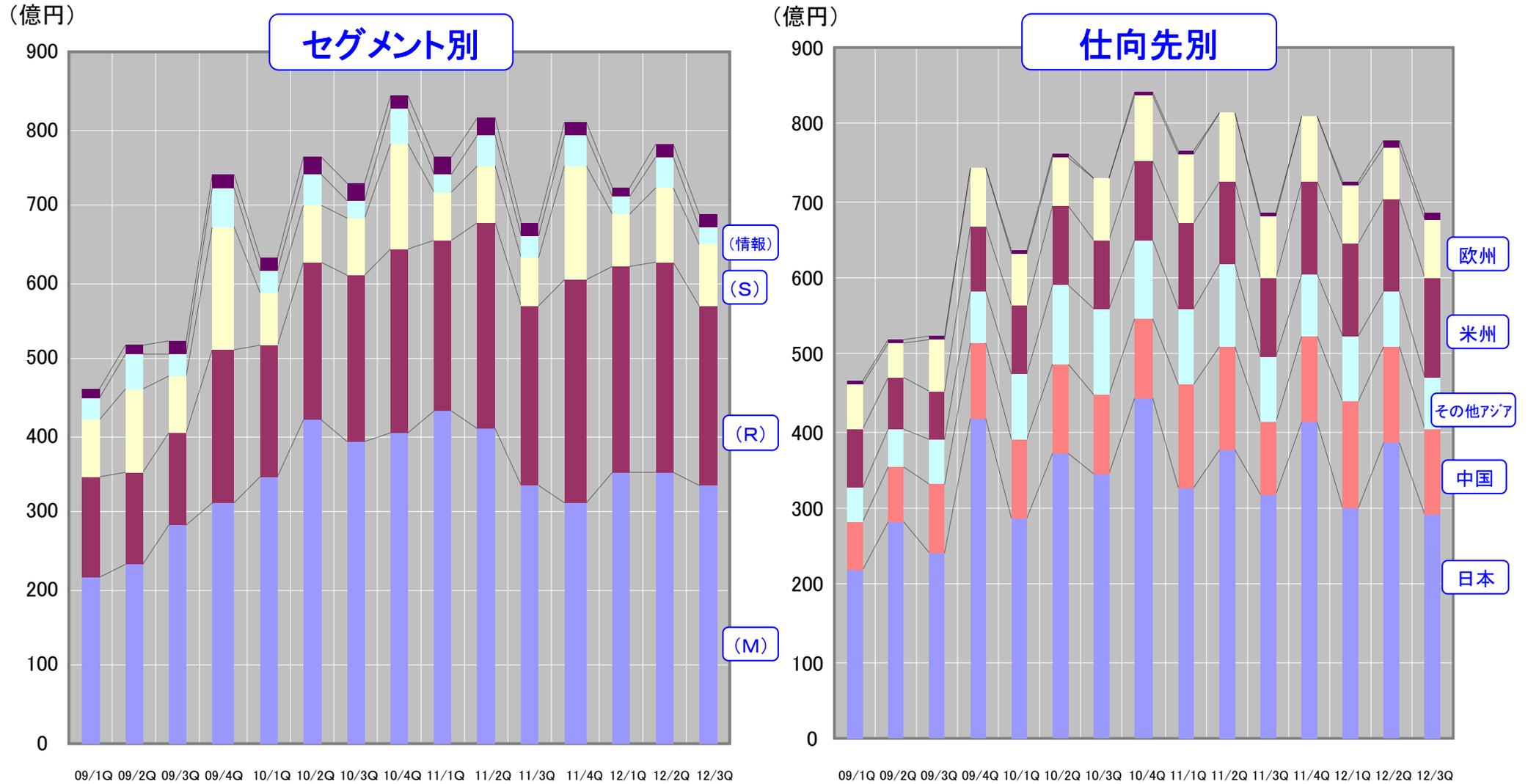
- 自己資本比率 36.0%
- 自己資本 1,017億円
- 有利子負債 546億円
- D/Eレシオ 0.54
(ネットD/Eレシオ) 0.27
- 棚卸資産 662億円
(回転月数) (2.7ヵ月)

※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用



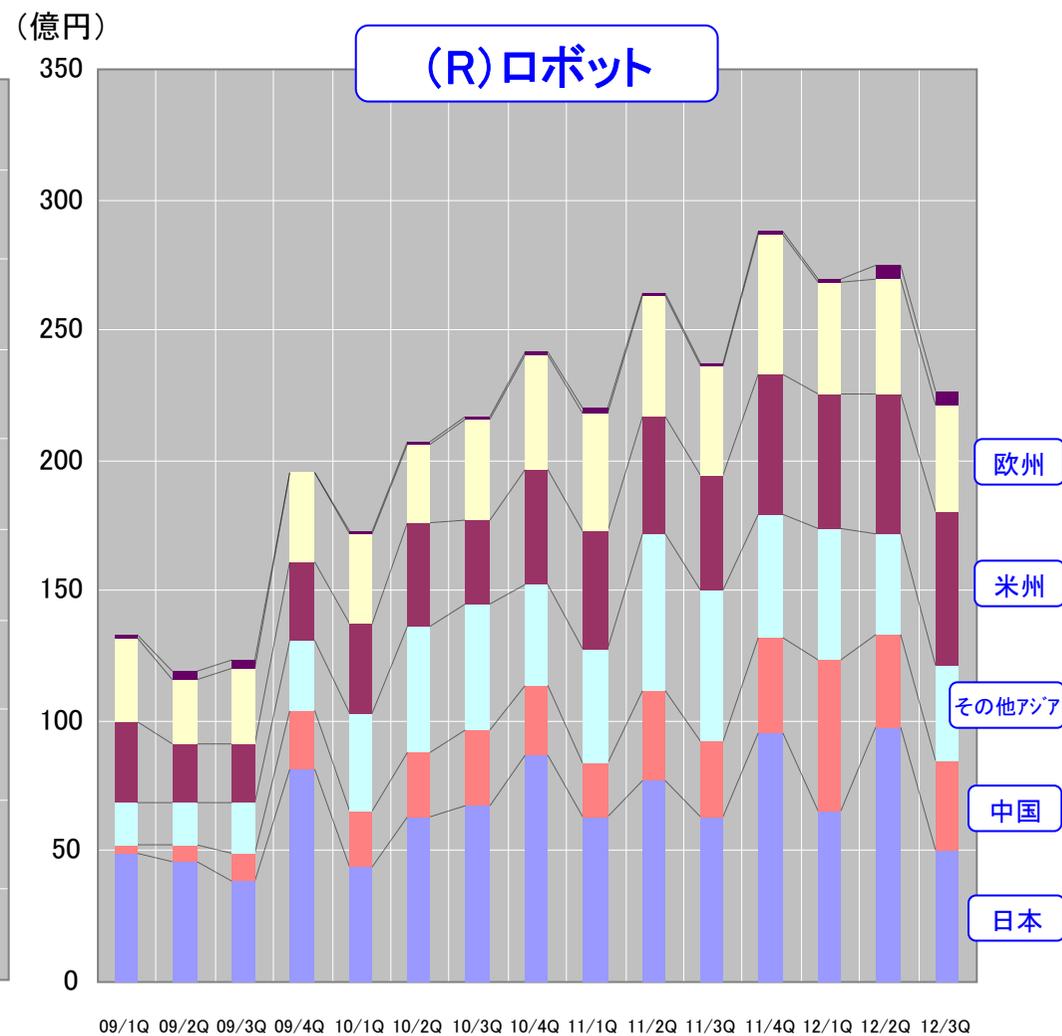
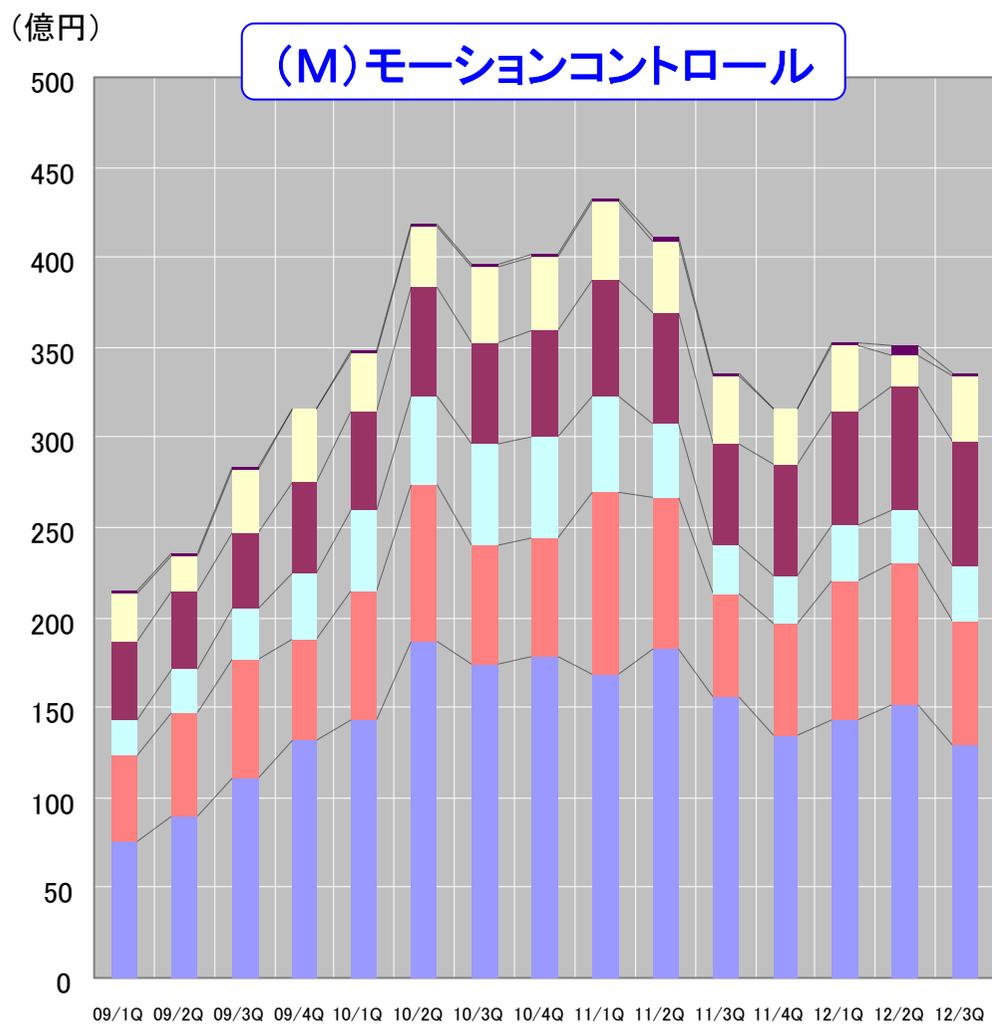
営業CF	84	185	57	187	149	176	124	40	24	63	211
投資CF	▲19	11	▲22	97	▲61	▲99	▲106	▲64	▲67	▲118	▲66
フリーCF	64	196	35	89	88	77	17	▲24	▲42	▲54	123

四半期連結売上高推移(セグメント別・仕向先別)

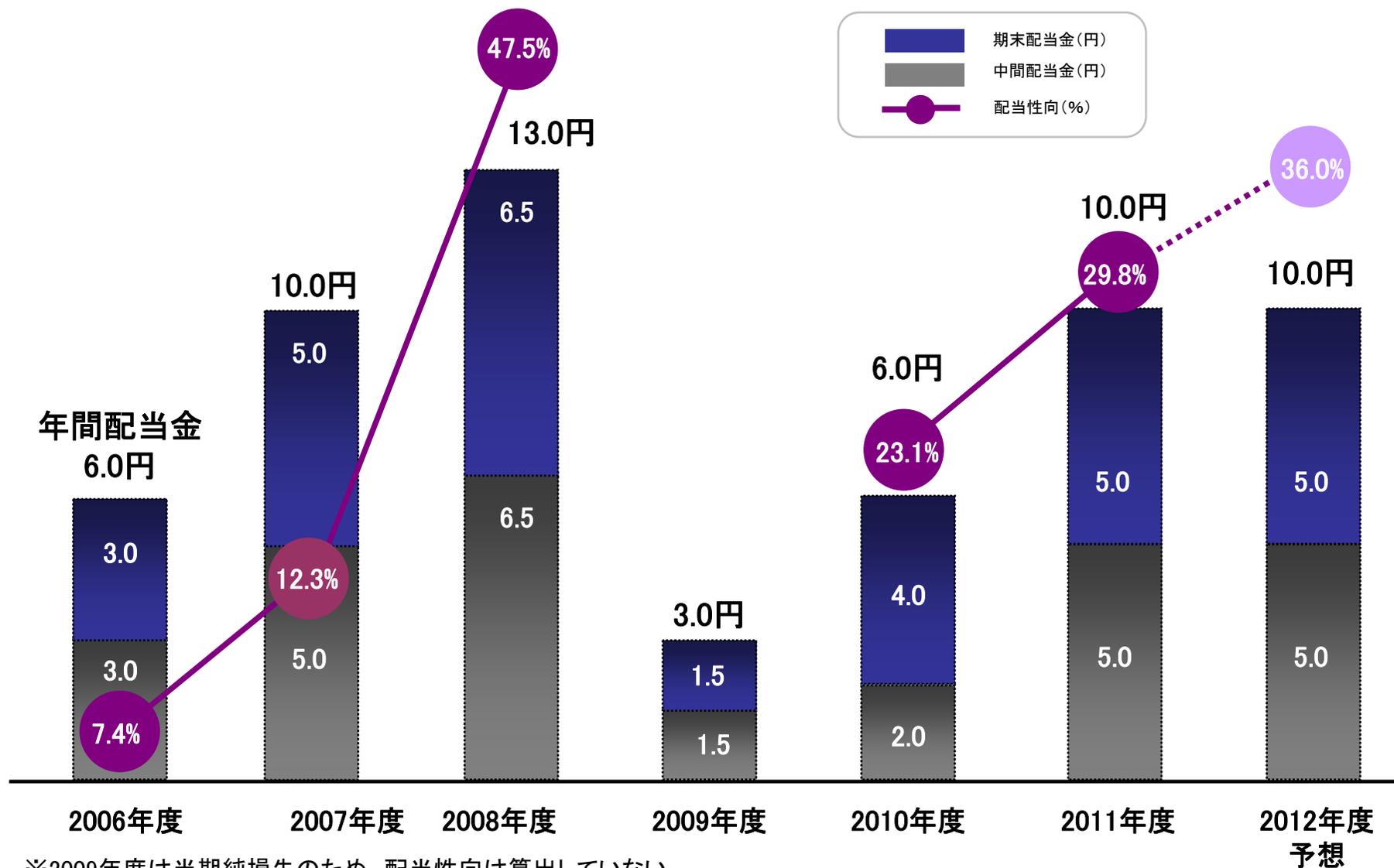


(注)表記: (M)=モーションコントロール (R)=ロボット (S)=システムエンジニアリング

(M)(R)四半期連結売上高推移(仕向先別)



配当金の推移(2006年度～2012年度予想)



※2009年度は当期純損失のため、配当性向は算出していません。

主要生産拠点 (グローバル事業展開を支えるYASKAWAネットワーク)

